

ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



135 号

2019 年 3 月 10 日発行号

自然文化誌研究会も 45 年目になりました。

活動報告

「冒険学校 まふゆのキャンプ」報告

12.22~24

暖冬の年でした。キャンプ場で凍る物が何もない、雪もない～。でも火は絶やさずに、キャンプ場の外にもたくさんお出かけしました。



小菅川漁協のお手伝いで、ヤマメの稚魚放流をしました。水温 5℃。裸足で川に入った人も！！



常に火と温かい食事が必要でしたね。



野鳥観察、餅つき、村内散策、滝、薪集め、焚き火、星空観察、そして最後は小菅の湯に入って終了です。

「第 14 期ちえのわ農学校」 報告 **報告と新年度の募集内容です。**

2018 年度代表 櫻井優介(東京学芸大学 3 年生)

皆様、こんにちは。私たちは「東京学芸大学 サークルちえのわ」です。私たちは大学構内の教材植物園（農園）で、地域の子どもたちと食農文化体験活動をしています。また、自然文化誌研究会が開催しているキャンプにもスタッフとして参加しています。今回はこの場をお借りして私たちの活動「ちえのわ農学校」の紹介と、新年度 4 月から始まる「第 15 期ちえのわ農学校」の募集をしていきたいと思っています。

【ちえのわ農学校とは】

「サークルちえのわ」は大学のサークルであり、スタッフのほとんどが大学生です。私たちは教育と、自然体験や農体験に興味を持って集まり、ちえのわ農学校を地域の子どもたちに向けて開催しています。

ちえのわ農学校では、3つの“わ”を理念として、4月から翌年1月まで毎月1回(全10回)の活動を行っています。

＊自然のわ：自然の様々な表情と向き合いながら、「種から胃袋まで」の道のりを実践することを五感で感じるきっかけづくりをする。

＊人のわ：農学校だからこそできる体験を通じて子どもたちが仲間とのつながりを感じられるきっかけづくりをする。

＊知恵のわ：昔ながらの知恵や文化にふれ、身近なものを見つめなおすきっかけづくりをする。

活動の主軸となっているのは畑と田んぼでの活動です。畑では一年を通じて野菜の栽培をしています。毎年最初の活動で子どもたちは畑に種を植えます。それから収穫の夏まで毎月畑のお世話をし、今年（第14期）の活動では収穫した野菜を使って皆でカレー作りをしました。夏はトマトやナス、トウモロコシやスイカなどを育て、冬には大根や白菜、ブロッコリーなどを育てました。

田んぼではお米作りをしています。5月に泥だらけになりながら田植えをして、毎月稲の成長を記録し、お世話をしていきます。10月には自分の身長と同じくらいまで育った稲を刈って、干して、脱穀・精米をして、調理して食べます。今年は、うるち米ともち米をそれぞれ育てたので、一方は皆でおにぎりに、もう一方は1月にお餅つきをして食べました。

この二つの活動に加えて、毎月その季節に合った企画を用意して活動しています。今年は例えば、タケノコ掘りや草木染め、夏には流し素麺や竹工作をしました。8月には農園で1泊だけのキャンプもしました。秋冬には焼き芋をしたり藁工作を試みたりと、様々な活動をしました。

【第 14 期の活動を振り返って】

さてここまで、ちえのわ農学校について紹介しました。ここからはせっかくの場なので、私個人の視点から、感想などを含めて今年の活動のお話をしたいと思います。私は14期サークルちえのわの代表を務めていました。私が代表を務め初めて最初の活動日は、大変に緊張していたことを覚えています。もちろん子どもたちにとっても初めての農学校なので、私以上に緊張と不安の中にいたと思います。午前中のメインの活動はタケノコ掘りでした。しかし活動の最中、気づくと「あった！これタケノコだよね！？」だったり、最初はおもいおもいしていた子がスタッフに「あの、大きいスコップありませんか？」と子どもたちが夢中になってタケノコを掘っていました。その姿からは彼らの知的好奇心や農学校を楽

しもうとしている姿勢を感じました。それを見て私は、少し気が楽になったのと、これからの農学校をより良いものにしていききたいなと思うことができました。



4 月：タケノコ掘りと畑の様子



5 月：田植えの様子

それから月を追うごとに様々な活動を通してちえのわ農学校としてのまとまりができていき、8 月のお泊り農学校のころには子どもたちは仲のいい人同士で集まって一緒に寝たりもしていました。親元を離れてのお泊りは初めての子もいたのに、とても楽しく一晩を過ごせたことは、彼らにとって農学校が一つの居場所になれたのかなと、夜番をしながら思いました。他にも 8 月は自然文化誌研究会主催のキャンプに農学校の子も参加してくれて、忙しくも楽しい毎日でした。

毎月たくさんの企画を他のスタッフたちと考えて準備していくのは大変でしたが、一年を通してとても良い体験活動をできたと思います。興味を持っていただけたら、是非、ちえのわ農学校のホームページ (<https://www.gakugei-chienowa.org/>) に活動の記録などをまとめておりますので、ご覧ください。ここまでお付き合いいただき、ありがとうございました。



7 月：流し素麺



8 月：ヤマメを捌いておやつに



9 月：ご飯炊き



10 月：稲刈り

【第 15 期 ちえのわ農学校について（募集要項）】

□活動要旨

正式名称：ちえのわ農学校

対 象：小学校 3 年生～中学校 3 年生までの男女 18 名（応募者数が定員に達した場合は抽選を行います）

スタッフ：東京学芸大学学生を中心に 30 名程度

場 所：東京学芸大学 環境教育研究センターおよび教材植物園(彩色園)

費 用：実費負担年額 15,000 円（食費、保険、材料費等）

主 催：東京学芸大学サークルちえのわ URL: <http://www.gakugei-chienowa.org/>

共 催：NPO 法人自然文化誌研究会 URL: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

後 援：小金井市教育委員会

□2019 年度 年間予定

月 1 回の土曜日（全 10 回） 10:00～17:00（4～7 月）、10:00～16:00（9～1 月）

（日程・内容ともに変更する可能性があります。）

日程	4/20	5/18	6/15	7/13	8/17-18 (宿泊)	9/14	10/19	11/23	12/14	1/11
活動内容	開校式、 農園散策、夏 野菜の 種まき	田植え	かかし 作り	竹工作	夏野菜料理、 ヤマメさばき	冬野菜 種まき	稲刈り	脱穀、 粳すり、 精米	稲わら 工作	もちつき、修 了式
夏野菜の栽培						冬野菜の栽培				
田植えから脱穀・精米までの稲作体験 野菜の栽培・調理、自然を対象にした企画など										

※活動内容で未定な部分もありますが、子どもたちのやりたいことを聞きながら決めていきたいと考えています。また自由時間や季節ごとの農園散策、おやつ作りなどを通して、子どもたちひとりひとりがふと感じた興味を大切に活動していきたいです。

○参加の流れと申込方法

まずはお早めにメールで資料をお取り寄せください！！

①お問い合わせ→資料をお手元に

ちえのわ農学校のメールアドレス(gakugei_chienowa@yahoo.co.jp)にメールを送信してください。

参加希望の旨、お子様のお名前と学年、保護者住所・お名前を書いてください。

②郵便を受け取る

ちえのわ側がメールを受け取ると 1 週間以内にちえのわの紹介や申込書などの書類を郵送します。1 週間以内に届かなかった場合、ご連絡ください。

③お申込み

2019 年 3 月 29 日(金)必着で申込書を、郵送またはメールで必要事項を記入の上で送ってください。

④抽選

3 月 31 日に応募者多数の場合、抽選を行います。当選・落選の結果はお電話でご連絡させていただきます。

Tel : 080-9985-0159 (橋本)

E-mail: gakugei_chienowa@yahoo.co.jp

代表：東京学芸大学教育学部 3 年 橋本和幸（はしもとかずゆき）

参加希望の方、まずはお問い合わせください～！！

第 15 回通常総会の報告

2019.2.16

第 15 回通常総会に関しては紙面の都合上、2019 年活動予定・2018 年決算報告・役員の紹介の 3 点のみ掲載します。活動予定については、最終ページに記載していますのでご覧ください。

●役員（理事および監事 2019 年 3 月～2021 年 2 月まで） *全員が重任されました。

中込卓男	代表理事	藤盛礼恵	理事
中込貴芳	副代表理事	亀井雄次	理事
横山緑	副代表理事	木下稔	理事
鈴木英雄	理事	加藤翔	理事
小川泰彦	理事	瀬谷勝頼	監事
黒澤友彦	理事（兼事務局）	零永法	監事

●2018 年度決算報告（2018 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

科 目	金 額（単位：円）		
I 収入の部			
1 会費収入			
会費収入		690,000	
2 事業収入			
(1) 野外環境学習事業収入	1,678,928	1,321,400	
(2) 指導者養成事業収入	0		
(3) 博物館事業収入	0		
3 委託事業収入		106,567	
4 補助金等収入			
助成金収入		800,000	
5 寄付金収入			
寄付金収入		482,586	
6 雑収入		30,000	
当期収入合計(A)		3,430,553	
前期繰越収支差額		-268,709	
収入合計(B)			3,161,844
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 野外環境学習事業費	505,832	546,394	
(2) 指導者養成事業費	40,562		
(3) 博物館事業支出	0		
2 一般管理費			
(1) 職員給与	1,259,988		
(2) 通信費	71,417		
(3) 事務局運営費	39,857		
燃料代	220,531		
電話代	232,035		
事務用品費	42,813		
書籍資料代	0		
印刷・製本費	95,740		
備品代	19,825		
3 予備費	129,236	1,982,206	
4 補助金支出		129,236	
800,000			
当期支出合計(C)			3,457,836
当期収支差額(A-C)			-27,283
時期繰越収支差額(B-C)			-295,992

成合基金：¥215,000

平成30年の決算報告について出納簿等提出された書類に基づき監査した結果その内容は正確であることを認めます。

平成 31 年 2 月 10 日

監査員
同

瀬谷 勝頼
零 永法



■ 活動案内 ■

その 1 「野草の天ぷらとお茶つみの会」 4.21(デイキャンプ)

毎年恒例の「野草の天ぷらとお茶つみ」のデイキャンプをやります。普段は「葉っぱ」「雑草」として見落としがちな野草でも食べられるものがたくさんあります。野草を摘んで、天ぷらにして食べましょう。また、自分たちでお茶をつみ、蒸して、揉んで、飲みましょう。講師は樹木医の岩谷美苗さん、恒例の「キノコ探し」もメニューに予定しています。フランス料理の高級食材「モリーユ」が見つかるかも？雨天決行です。友人・知人を誘ってぜひご参加下さい。



日 時 : 4 月 21 日 (日) 9:30~15:00
 ※ 例年と日程を変更しています!!
 場 所 : 東京学芸大学 環境教育研究センター (農場)
 対 象 : どなたでもご参加ください♪
 参加費 : 中学生以下 : 300 円 高校生以上 : 500 円
 *当日参加 OK です。事前申し込みは不要です。
 *雨天決行です。
 *昼食、帽子、飲み物は持参をお願いします (天ぷらをするのでおにぎりなど。)
 *余裕のある方は 9 時ぐらいに来て準備を手伝ってくださると嬉しいです (^ ^)
 ←たくさん採れた野草! この後、天ぷらです。
 ←お茶も朝からみんなで揉みます~。

その 2 冒険学校『むらまつりキャンプ』 5.3~5.6(3泊4日)

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村でキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、ご飯づくり、五右衛門風呂、お祭りの見学などなど、多くのプログラムを準備しております。

小菅村の「第 32 回多摩源流まつり」も開催されます! 夜は、日本一のお松焼きと、山に響きわたる花火大会も見に行きます! ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ~!!



日 程 : 5 月 3~6 日 (3 泊 4 日)
 場 所 : 小菅村のいつものキャンプ場
 対 象 : 子どもだけの場合は小学校 3 年生以上、親子参加の方は幼児も OK です。
 宿 泊 : テント泊、ログハウスでの寝袋です。
 参加費 : 食費・宿泊費・保険代・教材費・
 奥多摩駅~小菅村間の交通費を含みます。
 会員 : 子ども ¥27,000 非会員 29,000 円
 会員 : 親子一組 ¥36,000 非会員 42,000 円

※先着順で 25 人の定員です、お早めどうぞ!!
 ※これ以外の組み合わせの時は、ご相談いたします。
 ※短い日程を希望の方は事務局へご相談ください。
 ※会員になると、今回から会員料金で参加できます。
 ※参加希望者は、ハガキ・もしくは E-mail に住所・氏名 (ふりがな)・年齢 (学年)・性別・電話番号を記入の上、4 月 19 日 (金) までに事務局までをお申し込みください。

『冒険学校を考える』 その2

自然文化誌研究会は「冒険学校」の歴史と内容をまとめた「冒険学校のあゆみ」を 2015 年に発行しました。「冒険学校」設立の経緯、各プログラムの詳細、「冒険学校」から展開していった活動を紹介しています。（「冒険学校のあゆみ」冊子を欲しい方は事務局までご連絡ください）

昨年夏の「こすげ冒険学校」にて、ルールを確認するためにスタッフ（助言者）と根本的な考え方を共有し、現在の小菅村及びキャンプ場に合わせたルールを再度見直しました。

まだ本会が小菅村に来る前、1980 年代の文章ですが、今も色褪せることのない基本的な考え方として、本会の「冒険学校」の指針となっていますのでご紹介します。

＊「冒険学校のあゆみ」より抜粋

1. 基本的な考え方

冒険学校では 13 年間の歴史の中で、試行錯誤を繰り返し、内容に工夫を凝らしながら活動を続けてきました。その基本的な考え方は子どもたちの自主性を尊重し、行動を促すのではなく、行動を「待つ」という姿勢にありました。これは十分なプログラムを用意しながらも、選択は子どもに任せることです。極端に言えば、子どもは何も選ばず、森の中で一週間昼寝をして暮らしてもよいということでもありました。この考えは、現在の自然文化誌研究会の環境学習活動にも生きています。大まかにまとめると以下の通りです。

- ① 秩父多摩国立公園に隣接した農山村の自然・文化環境の中で、教育的配慮のもとに野外活動を行い、地域の自然・文化遺産を継承するナチュラリストのジュニアリーダーを育成する。
- ② 安全が確保される限りにおいて、子どもの自主的な活動を尊重し、見守り、援助する。
- ③ プログラム選択の自由を可能な限り拡大する。これには子どもの発案による新しいプログラムを一緒に作ること、プログラムに参加しないで森の中で寝て暮らすことも含む。
- ④ 国立公園内での活動であるので、環境保全のためにロウ・インパクトを心がける。
- ⑤ 環境教育の研究普及活動の一環として、子どもと一緒に新しい自然接触・自然認識の方法を試行する。
- ⑥ 子どもが自然に抱かれて、心身を解き放ち、多くの友達を得て、満ち足りて家庭に帰ることを期待している。

（NPO 法人自然文化誌研究会 H.P.より引用）

冒険学校の実施概要としては、参加対象者は小学 3～6 年生で、40 名程度の参加者が 2～3 コース（村・川・山コースなど）に分かれて、6 泊 7 日の期間でキャンプ生活を行いました。活動は 1988 年より 13 年間継続し、第 1 期～3 期までが東京都西多摩郡五日市町（現・あきる野市）、第 4 期～13 期までが埼玉県秩父郡大滝村中津川地区（現・秩父市中津川）がフィールドでした。講師およびスタッフは、東京学芸大学冒険探検部を中心とした大学生、地元住民を含む専門家（地質学・郷土食・染織家・工芸家）等で、スタッフと参加者の中間的な存在として中高生のジュニアリーダーを設けていました。

【今夏の「こすげ冒険学校」について】

日程につきましては、8 月 4 日（日）～10 日（土）の 6 泊 7 日に決定しました。

募集につきましては、次号の「会報ナマステ 136 号（5 月中旬発行予定）」にて、ご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

冒険学校を卒業した高校生・大学生の皆さん、ぜひスタッフでお越しください、お待ちしております。遠慮なく事務局までご連絡を～！

（事務局 黒澤）

「タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから 20 年⑩

今年になってすぐの 1 月 9 日に若林夫妻が東京にやってきた。A さんの博士課程の研究のためである。いつものようにタイ担当のゴミさんが A さんと連絡を取り合っていたが、9 日は時間が取れるので何かお手伝いできればと思っていた。9 日朝 5 時に羽田空港に着くという。「9 時に立川駅で待ち合わせ」とゴミさんからメールがあった。立川にある国文学研究資料館に行きたいとのことであった。調べてみたらこの日は休館日であることが分かった。前日の夕方のことだったので、あわてて A さんに直接メールを送った。今空港へ向かうところで東京に着いたら電話をするとのこと。朝 8 時過ぎに若林さんから電話が来た。「今新宿です。どうしたらいいでしょう？」公衆電話からで、もう 10 円玉が無くなるということで急いで話し、10 時に上野駅の公園口で会う約束をした。この電話で起きた私は急いで朝食を済ませ上野へ向かった。着いたのは 10 時 2 分前。若林夫妻の姿を見つけた。

ムンク展を見たいというので東京都美術館を目指した。A さんは昨年 10 月に発売されたばかりの 125 倍というとても高倍率のデジカメを持っていた。3000 ミリに相当する。タイで撮った鳥を見せてもらった。きれいによく写っている。もともと A さんは鳥に上手に近づけるので、このカメラを持ったらなんでも撮れてしまうと思った。

A さんは野鳥を撮影したいということで不忍池へ、私と若林さんはムンク展へ行くことになった。お昼近くに合流し、上野でお昼を食べた。午後はと尋ねたら飛行機で 1 時間ぐらいしか寝てなく、宿に行ったら仮眠を取りたいという。新宿で別れた。

後日 12 日に縦勢 8 人で二人の歓迎会を開いた。二人は 13 日に京都へ向かった。20 日にタイに戻るという。「京都に着いた。」と連絡があった。次に会うのは 8 月にタイであろう。

今回の来日で若林さんから日記風随筆の最新版をいただいた。昨年のタイ環境学習キャンプについて詳しく書かれていたので紹介する。本会会報「ナマステ 133 号」（2018 年 9 月 10 日）に「タイ環境学習キャンプ」報告と題して大窪青樹さんが寄稿してくれているが併せて読まれると面白いと思う。

（中込 卓男）

（注）文中の A さんとは、若林夫人のことであり、ポンティップさんのことです。



▲東京都美術館 若林夫妻

『2018 日記 より』（1/2）

若林卓司

2018 年 8 月 11 日

朝、テレビのニュースを見ていたら、7 時半ごろ、ポンティップがゴミさんから Facebook（フェイスブック）のメッセージが来ているという。深夜に着いて、今日の 3 時まで時間が空いているというものだった。会うのは明日だったが、私はチャトチャ公園へ走りに行き、それからシリキット公園での母の日の行事に行く予定だったので、10 時頃チャトチャ公園で会うことにした。ポンティップはお母さんと一足先に会場へ行った。一行は 3 人。ゴミ、ゴメ、大窪さん。後、200 メートル走れば 5 キロのところで電話がかかってきて、電話を受ける画像が出ないので、歩きながらごそごそしているうちに 3 人に会った。



▲左から 大窪くん 中ゴミさん 若林さん

シリキット公園でポンティップに会ってから、通りに並んでいる店を覗きながら歩く。ポンティップがパーラ・ウーの「コップ・マー・タオ」という品種のドリアンを買って、みんなで分けて食べた。バ

ターのような感じがした。1 個 600 バーツ（約 2040 円）だった。



▲ポンティップ若林さん ドリアン

今回の展示はおもしろかった。ホテルのことでパンポット・ナポムペート編「ホテルの多様性と保護」という英語の研究誌がもらえ、係りの人と話げできた。他にもマングローブ林を利用したいろいろの製品、ハラバラーのチョウ、サイチョウ、ゴムの木にできる南部のキノコ等、面白い企画があった。



▲ホテルの展示 若林夫妻

出店でパッタイ、ホーイ・トート、カノム・チーン、カーオマンカイ等を頼んで食べる。お土産の交換をする。毎回毎回私たちは二人にいいものをもらう。時間が来たので 3 人を送り、お母さんにはちょっと待ってもらって、二人で車を取りに行くが、いい加減に駐車している奴がいて、車が出せない。仕方がないので、タクシーを捕まえて帰った。車は夕方、弟に取りにいつてくれるように頼んだ。帰ってから二人とも仮眠。ポンティップは今日徹夜になるかもしれない。

8月12日

9 時にラーチャパット・プラナコーン大学を出発することになっていたのに、8 時前にコンドーを出て、タクシーを捕まえる。大学内のホテルで、ゴミ、

ゴミ、大窪さんの三人に会って話していると、迎えのバンが来た。運転手はいつものミックさん。バンの中で、ゴミさんが「ギャル曽根」知ってるかと聞いてきた。昨夜、ラダワン先生に招待されたとき、一緒に来ていた若い女の子はよく知っていると言ったそう。話を聞くと、タイに大食いの挑戦に来て、ことごとく勝利を得て、タイ人にも知名度が高いという。私たちはよく知らないのに、ポンティップが iPad(アイパッド)で動画を探す。カノム・コックでタイのチャンピオンに挑戦したものがあつた。制限時間は聞き逃したが、560 個も食べて勝利した。これはすごいことである。早速次の授業で学生に聞いてみようと思った。

スパンブリーで恒例のビール買いやゴミさんの実験の品を探すのに時間がかかり、バーンライのパンダキャンプに着いたのが 1 時半ごろ。それからこれもいつものようにノーイさんの奥さんキーさんと、イェンさんの作ってくれた昼を食べ、3 時ごろシーナカリンドラム湖の畔にあるバーン・ナム・ウーへ向けて出発した。シリポンさんは炊事用具や魚取り道具、ゴミ・ゴミの金の虎の子ビールなどを乗せて、ノーイさんとピックアップトラックで道案内をしてくれた。ウタイタニーからカンチャナブリーのダム湖まで、思っていたより早く行けるのが分かったが、なかなかの僻地である。私たちはここで二泊することになっている。着いたのが 5 時ごろ。寝るのは筏の上なので、荷物を積み込み、繫留地まで引っ張ってもらう。



さっそく、キーさん、イェンさんには夕食の用意をしてもらう。ノーイさんが魚釣りを始めるがなかなか掛からなかった。夕食を済まし、暗くなってから、屋根に付いた太陽光パネルで発電した電灯に虫が集まりだしたが、筏に来ていたオーナーが 8 時には虫はいなくなると言っていたが、その通りいなくなった。ポンティップはノーイさんやオーナーと話していたが、私たちはシリポンさんに、横道にそれ

ながらも、みっちり 3 時間、ミツバチやハリナシバチの話を聞いた。この時通訳した内容はパンダキャンプに戻ってからのワークショップでの通訳に役に立った。



▲筏（水上コテージ） 中央下がシリボンさん

8月13日

寝ているとき、筏に打ち寄せる波の音を聞いたが、あまりゆれなかった。起きだしてテラスに集まって話をしていると鋭いカワセミの声。アオショウビンであった。ご飯の前にみんなでひと泳ぎをした。食後、スピードボートに乗って、パーク・カーケン寺へ行った。



▲キーさんとイェンさん

ほかの鳥はあまりいなかった。ここで見た彩色のゴキブリは珍しいのかもしれない。寺を出て、舟でぐるっと回って、筏の上の小さな店へ行った。ここで魚を売っているの、それを買うためである。フナ

科の魚が多いが、ナマズもいた。10 匹近く買って 60 バーツ(約 200 円)だった。



一旦、筏に戻り、昼を食べ、再びフーワイカーケン野生動物保護区の一歩南に当たるクルン・クライのレインジャーの駐屯地へ行った。オーナーからこの辺りには野生の水牛が見られると聞いていたので、注意深く岸辺を見ていると小群が居る。遠くから、逃がしてはならずと写真を撮り始める。船を近づけて双眼鏡で見ると、鼻のところにローブが通っているのが見えた。普通の水牛である。目的地に近づいたところでも水牛の群れ。黒々とした一匹のオスは只者ではない。



再び、カメラの砲火を浴びせる。今度はロープも見当たらない。半信半疑の気持ちもあったが、誰もが本物を見たと思った。これは後でレインジャーに聞いたことだが、野生の水牛は保護区の奥にいて、こんなところにはいないということだ。船着き場に舟をつけて、小高いところにある駐屯地に上がる。レインジャーの人に快く迎えてもらった。湖はこの辺りから川状になり、ジャングルの奥に消えていた。



このカーケン川を溯れば何年か前に行ったカオバンダーイに行ける。天候は雨が降ったり止んだりだが、強くは降らないので、ずいぶん助かった。筏に戻ってから、私と大窪さん以外は救命具を付けて泳いでいたが、私は筏の上から景色を眺めて時間を過ごした。なかなか落ち着く景色なのだ。



昨日、電灯をつければ虫が寄ってきたので、この日はまだ明るい5時過ぎに夕食にした。毎回毎回大変だと思うが、キーさんとイェンさんが作ってくれる料理はおいしかった。



▲キーさんとイェンさんの調理場。食材、調理器具は持参したもの



私は、食後仮眠したが、起きて驚いた。みんな筏のテラスで小さくなっているのだ。灯下にやってくる虫が半端じゃないからだ。よく見たら、力の仲間だが灯下の向こう側が見えないぐらいなのだ。水面に落ちた虫を食べにアメンボやもっと小さい水面を泳ぐ虫が来ているのを見つけたので、この小さいのを少し採集した。この日は光を使うと、虫が寄ってくるので早く寝ることになった。雨が少し強く降り、筏はよく揺れた。



二日間、筏の上で珍しいコーヒーを飲んだ。キー、イェン二人のコメの炊き方は水を捨てながら炊くので、とぎ汁が出る。そのとぎ汁をお湯代わりに使うのだ。最初は、それはちょっとと思ったが、飲んでみて悪くはなかった。ゴミさんが重湯みたいだと言っていた。

8月14日

朝起きたら、ノーイさんが、仕掛けた網を上げていた。前日はほとんど掛からなかったのだが、今朝は30匹以上掛かったと得意気だった。これらの魚はすべてから揚げになって昼食のおかずになった。



朝食の後、迎えのボートがやってきて、筏を元の位置まで引っ張って行った。今日はオーナーの息子さ

んの案内で、湖の畔を北上して、クルアン・クライというカレンの集落へ行くことになっている。タイ共産党の活動を聴くためである。国境警察が管理する学校の隣の家を訪問した。



そこのニコムという 77 歳の老人に話を聞いた。ニコムさんはマハーサーラームの人で、シーナカリンドラムの水没予定地を調査するためにここに来て、カレンの女性と知り合い結婚して定住したという。後で村長が来られたが、この人が息子さんだった。村長は地方史であっても歴史を残すために、まず、カン・スパン・ウタイ 3 県の関係者を呼んで慰霊祭を行い、そういう人から資料を集めたいと言っておられた。いろいろ話しているうちにニコムさんの奥さんも来られたが、話が聞きづらく、ノーイさんに通訳してもらった。ここで聞いた話は別のところに書こうと思う。シリボンさんが山の上に住んでいるカンボジア語を話す人々について聞いていたが、このごろは人口が減ってきていることしかわからなかった。私も大学でカンチャナブリーのカンボジア語を話す人について聞いたことがあるが、この辺りのことだとは知らなかった。その後、すぐ近くのお寺により、筏のところまで戻った。



ピックアップの荷台に乗っていたポンティップがインコの群れを見たと saying it. 地元の人はタイ語で「ノッカリン」（スグロコセイインコ）と呼んでいるそうだが、図鑑では生息地とちょっと外れているので、種の同定はできなかった。

筏に戻り、昼を食べ、荷物をピックアップに運び込んだ。中に 5 人、荷台に半分以上を占める荷物と 4 人が乗って、2 時間ほどかけてパンダキャンプに戻った。

私は例のごとく、シリボンさんと話詰めになった

戻ってから、預かってもらっていた荷物を取りにシリボンさんの家に行った。ここにはハリナシバチの 9 つの巣があった。ハリナシバチは蜜の採集が多くできないが、ハチが集めてきた花粉と樹脂から作られるプロポリスは役に立つものだという。とくに後者は薬の原料として最近注目されているそうだ。シリボンさんは私たちにこの三つのものを試食させるために、結構手荒に巣を扱うので、怒ったハチはうるさく付きまとい、髪の毛の中まで入ってきた。針はないので刺されないが、噛み付いてくる。花粉はちょっと酸っぱく、プロポリスはちょっと苦かった。



次回につづく

『藤農便り』 第 16 号

宮本茶園 ヘルミッシュョネルズ宮本

湘南育ちには相変わらず厳しい冬でしたが、佐野川でも春の訪れが感じられるようになりました。梅が満開、茶畑周辺ではフキノトウが顔を出しタンポポやオオイヌノフグリがかわいらしい花を咲かせています。最近ピオ市農家の若者たちがつけてくれたあだ名が「ヘルミッシュョネルズ宮本」、漫画「キン肉マン」に登場するキャラクターだそうです。彼らは親しみを込めて「ヘル宮本さん」と呼んでくれます。娘や息子にその話を話すと「ときどきネットで藤野の『ヘルミッシュョネルズ宮本』見かけるけど、やっぱりお父さんの事だった！」と大ウケです。ピオ市仲間に敬意を表し、今号からペンネームに使わせていただきます。

・冬の茶仕事

私の茶畑は有機肥料とワラ・大豆殻・カヤ等有機資材を使った土作りをしています。大豆殻に残った豆や土中のミミズを食べに来るのか、この冬はイノシシが畝間を掘り起こしています。和田ではいたるところに穴が開いて、根がむき出しになってしまいました。上岩では養蚕に使っていた古ムシロを大量にいただき畝間に敷き詰めたのですが、全てめくりあげられてしまいました。



年末年始は和田に通ってクワやスコップで倒された茶樹の根元をひたすら埋め戻し、デコボコになった畝をレーキでならしました。正月明けからは上岩で新しく借りた荒廃茶園の整備に取り組みしました。前号で報告したように夏に生い茂った雑草で茶樹は葉も見えない状態です。



枯れた雑草をていねいに取り除いては踏み潰して平らにし、イノシシがめくりあげた古ムシロを運んでマルチにして畝間に敷き詰めていきます。単純な仕事なのですが、作業着はひつつき虫だらけで入浴すると湯船に雑草の種が漂う日々が続きました。株元に茂るツルバラを抜くので皮手袋はボロボロ、指先は傷だらけ、昨年怠けた事を後悔しました。苦勞してきれいにした新しい茶畑を見ると達成感で気分爽快です！



1 月 31 日、第 51 回神奈川県茶業振興大会が津久井中央公民館で開催されました。今年は小池藤野

茶業部長が茶園共進会 2 等で表彰されました。大会資料に写真が掲載された小池部長の茶畑はきれいに刈り込まれカヤが敷き詰められています。佐野川茶の未来を照らす上位入賞は、部員一同大きな励みになりました。



・ちーむゴエモンの活動その3

昨年は 4 月の苗作りから始まって、5 月の田植え・夏の草取り、10 月の稲刈りと年間を通して米作りを体験することができました。年末の餅つきはアルバイトで参加できなかったのですが、1 作業 1kg のお米がメンバーに配られました。私は 4kg いただき、元旦に娘夫婦と孫と一緒に味わいました。金剛山の産みたて卵をおかずにして自分の茶碗のご飯をあっという間にたいらげた孫は、父親の茶碗に手を伸ばし満足そうに食べています。娘は「すごい食欲！赤ちゃんでも美味しい卵やお米の味がわかるのね」と驚いていましたが、地道な農の営みが報われた爺さん冥利に尽きるうれしいお正月でした。

今年の醤油仕込みはビオ市仲間でグループを作り、イイノベーションさんがリーダーとなり 2 月 8 日～11 日に千木良のヤギ苑で行いました。アルバイトがあり全行程参加はできませんでしたが、2 回目なので仕事のコツが覚えられるようになりました。仕込み 3・4 日目は麹温度が落ち着いてくるので、作業の合間にみんなで黄粉作りをしました。大豆を煎り石臼でひく作業は Facebook で紹介され、たくさんの方から「楽しそうですねー」・「お疲れ様！」とメッセージをいただきました。津久井在来大豆の黄粉はとても甘く、砂糖を使わず餅にまぶして参加者に振る舞われました。



ビオ醤油の材料は佐野川の大豆と千木良の小麦、仕込みの水もこだわろうと話が盛り上がりました。各地区の名水がいろいろ候補に上げられましたが、一番評判が良かった上野原市桐原の軍刀利神社の湧き水を使う事になりました。急遽訪ねた早朝の軍刀利神社は静まり返り凍りついた世界、まさに知る人ぞ知るパワースポットです。藤野ではこの水を汲んで茶やコーヒーを入れる人が多いのですが、口に含むとやわらかで確かにおいしい水です。最高の原料で仕込んだビオ醤油、出来上がりが待ち遠しいです。



・藤野地域チキンの会 金剛山チキンプロジェクト その2

昨年 1 月雄鶏が獣に殺されましたが、残された 5 羽の雌鶏は元気に卵を産み続け会員の食卓を潤していました。月 1 回の共同作業では毎度貴重な鶏糞をいただき、茶畑の肥料にしていました。1 月 22 日、餌当番に行くと小屋周辺に羽が飛び散り、首と翼に怪我をした鶏がうずくまっています。数を確認すると 4 羽、再び獣に襲われ仕留められた 1 羽が持ち去られました。怪我をした鶏は数日間ほとんど動かず虫の息でしたが、生命力が強く 2 月になると餌をついばみ走り回るまでに回復したのです。16 日の共同作業では「元気になってよかった。また卵産めるといいね」と参加者一同明るく話していました。

週明けの 18 日、餌当番から「イタチかテンの仕業でしょう。穴が開けられ全滅です。ショックです」と緊急連絡が入りました。私が訪れた時は会員が屍を片付けた後で小屋は空でしたが、掘られた穴を見ると自然の中にいる動物たちは常に生きるか死ぬか厳しい緊張関係にあるのだと改めて思い知らされました。



・雑穀街道普及会

昨年収穫した大豆は出荷に当たり田村さんの指導をいただきました。機械選別された大豆から手作業ではぜた粒や紫斑病で変色した粒を取り除いて出荷、そこまでこだわる大豆の等級は全て 1 等です。お話を聞き、農協や農業委員会の方々が田村さんを絶賛する意味が今一度わかりました。寒中の陽だまりで富士山を眺めながらのんびりと不良粒を取り除いて出荷した佐野川産の大豆は、おかげ様で完売することができました。また、ゴエモンの白水さんから相模湖駅前かどや食堂を紹介され、新メニュー「津久井在来大豆のおまめちゃん定食」の食材にもなりました。先日お礼を兼ねて食べに伺いましたが、手羽先とワカサギ、ふんだんに大豆を使っ

たボリューム満点の定食で人気メニューになっています。相模湖にお出かけの際は皆様も召し上がってください。



大豆を収穫した畑には昨年 12 月 7 日小麦とモチ麦を播種しました。多くの農家は 11 月中旬頃までに麦播きを終えるようですが、段取りが悪く遅くなってしまいました。芽がようやく出そろったのは年末で、近隣の畑は葉が大きく育っていました。正月が終わると土寄せや麦踏みをした畑を見かけるようになり、小さな葉にヤキモキしていましたが 1 月下旬から作業を始めました。せん定枝や古ムシロを燃やした灰をまきながら株間をクワで耕すと、大豆の葉は腐植し始めボロボロになっています。大豆・雑穀・麦を輪作していけば理想的な有機栽培ができる事でしょう。



2 月 16 日の自然文化誌研究会の総会では、雑穀街道普及会藤野地区の活動は上岩の雑穀畑で行うことが承認されました。私は農家なので収穫物は出荷・販売しますが、大豆・雑穀・麦等できるだけ多くの穀物を栽培します。以下おおまかな年間予定です。

- 4 月～6 月 植付準備、雑穀・大豆播種、麦収穫・調整作業
- 7 月～8 月 除草・土寄せ等管理作業、防鳥ネット張り
- 9 月～11 月 雑穀・大豆収穫・調整作業、麦播種
- 12 月～3 月 片付け・土作り、麦踏み

* 興味ある方はヘル宮本までご連絡ください。

Tel: 090-2205-8476 (宮本透)

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8 その 6

クリスマスとホグマニー（その4）

佐伯 順弘（岐阜県）

DAY9（31DEC2012）エジンバラ滞在



エジンバラの海を見ていた。日が落ち、気温は既にかなり下がっていた。海を眺め、満足したので街中に帰ることにした。ずいぶんと街外れの場所に来ていたが、幸い近くにバス停をみつけた。時刻表を見るとしばらくは来ないようだが、まあいい。



寒いし、腹も減った。しかし、この状況を味わえる自分を楽しんでた。そして、こんな時、様々なことを考える。こんな時とは、ただ待つだけの時とか、何時間も山道を歩く時とか、眠れない夜とかそういう時だ。こういう時は、今、日本や世界、地球で起きている様々な問題について考える。解決するにはどうしたらよいか。ほとんどの場合、素晴らしい解決策を思いつくが、それを喜ばない者の存在にも同時に思い当たる。彼らをどう排除するかを考え始めるが、そもそもそんなことがゆるされるのか。持つ者が持たざる者を苦しめることによって世界が成り立っているという簡単な前提にたどり着いて絶望する。そして、自分の発想も持つ者の身勝手

な発想でしかないことに気づかされる。それでも、なんとかできないだろうか・・・

おっと、バスが来た。手を横に挙げ、乗る意思を表現する。温かい車内。シートに収まると目を瞑った。20分くらいで目的地付近まで着くと予想して、そのくらいの時間眠る。この計算はいつも正確だ。そして、確実に目が覚める。一人旅の中で身につけた能力の一つである。これは連れがいるとほぼ狂う。今回も、目的のバス停で無事降りることができた。

まずは、一度ゲストハウスに戻って、休養しこれから夜の部に備えなければならない。途中、フィッシュ&チップスをテイクアウトして、食べながら戻る。ベッドに横になり暫し休む。

1830 エジンバラホグマニーのメインイベント「ストリートパーティ」へと出撃する。チケットは持った。防寒装備はまあまあか。そろそろ街の中心地・・・。あれ？意外と人は少ない。



それにチケットチェックなどもない。なぜだ！ネットで発注し、台湾までチケットを送ってもらったというのに無くて入れたのか？

まもなく、そんな疑問は氷解する。単に早すぎただけなのだ。なんか楽しみで張り切って早く来すぎてしまったようなのだ。まだ、ライブステージの設営をしているし・・・。なんだよと思いつつ、メインストリートを歩き、土産物らしき店で、スコットランドの旗がデザインされたニット帽とマフラーを15.98GBPで購入。

これでスコットランド人に成りすました。



年越しの花火まで5時間もあるのでは、そりゃ人もいないであろう。それでもウィンターワンダーランドもきれいだし、会場全体を把握するには十分な時間だ。屋台もいろいろ出ているし、食べ歩きもいいだろう。



屋台の焼きそばを試してみた。これがまた、大外れ。どんなソースを使ったらこんな味になるのか、タマネギと肉がぐちゃぐちゃになって薄茶色のペースト状になっているものが麺にかかっている。英国に来て、2つ目のまずいものに出会ってしまった。これなら、日本の小さなお祭りで消防団のお兄ちゃんがつくっている焼きそばの方が 6.02×10 の23 乗レベルで旨い。そんな怒りの中でも食べ物を粗末にしない躰をされているので完食してしまった。そうこうするうちに突然、人がわらわらと湧いてきて同時多発的にいくつかのステージでライブが始まった。思えば、初フェス体験だったのかも知れない。人の波に流されながら、様々な音に揉まれる感じがした。かなり寒いのに寒いとは認識しない。それにしても不思議な旋律だ。これがスコットランドの音楽なのだろうか。ギターとバイオリンとアコーディオンの編成なんて聞いたこともなかった。なんというバンド名だったか完全に忘れてしまった。ちゃんとメモしておけばよかった。他にもいくつかのバンドがパフォーマンスを繰り広げていて、誰も

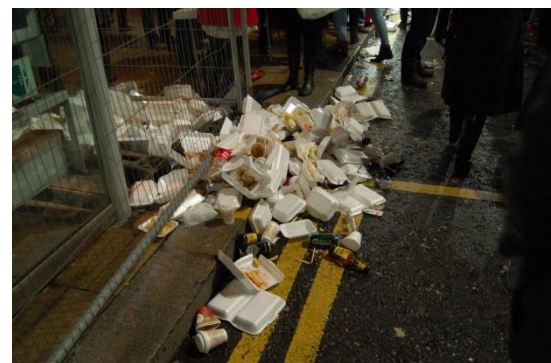
が思い思いに楽しんでいる感じだった。



とにかく音楽を楽しみ、ビールやサイダー（アルコール飲料）を飲んで騒ぐという人々に感化され、同様の行動をとってしまっていた。



会場に売られているアルコール飲料は小瓶の大きさに全てプラスチック製の容器だった。酔っぱらいが多発する状況では賢明な対策である。



しかし、ゴミ対策はまだまだである。伝統あるフェスなんだから、このくらいの対策はしてほしいものである。

さて、そうこうするうちに真夜中である。ライブも一段落して、どこかのステージでもカウントダウンにはいった。一斉に上がる花火。沸き起こる歓声。対抗するつもりも立場でもないが、日本の花火の方がやや整っていると思った。



明けましておめでとう！2013 年の始まりだ。こんな年越しはそうあるもんじゃない。

花火が終わると、その場にいた人々すべてが歌い始めた。スコットランド民謡「オールド・ラング・サイン」。日本人的に言えば、「蛍の光」である。もちろん、歌った。日本語で。日本では終わりの曲という感じだけれど、こちらでは年始であるらしい。原曲を本場で聞いたことがうれしかった。今度来たときは原曲で歌おう。

花火が終わると少しずつ人々が帰り始めた。まだ、音楽が流れていたり飲んで騒いでいたりという状況ではあったが、調子に乗ると体調を崩すのでおとなしくゲストハウスに帰還する。



部屋に入る前に食堂の前を通ると、朝食の時間が貼ってあった。そりゃそうでしょうよ。ゆっくり寝るがいい。今日はかなり歩いたので、疲れている。明日は朝寝することにした。

DAY10 (1JAN2013) エジンバラ滞在

1000 朝食を食べに行く。スタッフはきびきびと動いていた。さすがである。



いつものスコティッシュブレックファーストで燃料を目いっぱい詰め込む。これだけであとは何も食べなくてもいいくらいだと思う。旨い。普通に旨い。何か文句でもあるのだろうか。いやない。全粒粉のパンも味わい深い。いったん部屋に戻り状況を確認した。記録を付けたり、地図を眺めて行動計画を立てたりして、午後からアーサーズシートという山に登ることにした。

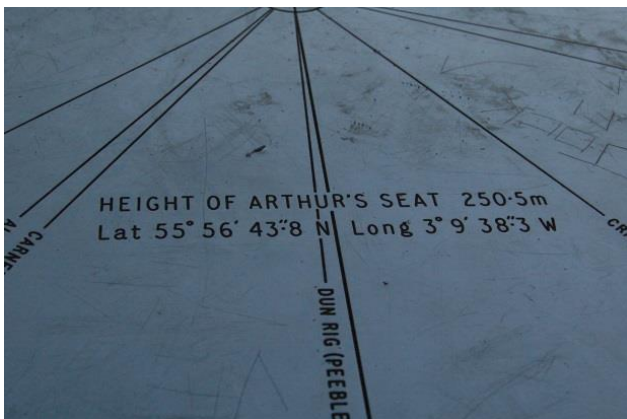


1300 New Year's Day は真っ青に晴れ渡り、何もかも新しい気がした。佐野元春「Young Bloods」が頭の中で流れる。静かで落ち着いていた。この清々しさはどこにいても同じなのだろうか。日本の元日も記憶にある限りではすべて気分がいい。ありがたいことだ。柔らかな日差しの中をのんびり歩く。アーサーズシートのある山はそれほど遠くない。街には人が少なく、昨夜あれだけゴミまみれだった街はきれいになっていた。深夜から早朝にかけて掃除をしてくれたであろうスタッフに心の中で深い感謝を捧げる。ゴミ対策はちゃんとされていた。

山の登り口に近づくと何やら大会をやっているようだ。自転車走っている人もいるが、スタッフか？5 日後にも大会があるようだ。いわゆる正月マラソンか。どこの国でも似たようなものがある。自分も正月登山だが・・・。



緩やかな山道をのんびりと歩く。登山というより散歩である。たいした勾配でもないし寒いので汗もほとんどかかないくらいだ。行程は楽だが、景色は変化に富んでおり切り立った崖や点在する池、草地、まだ 15 時前だというのに色づいた空を楽しんだ。



程無く頂上に付き、「アーサーの座」と呼ばれる場所で暫しぼんやりする。昨日見た海も見える。街も一望できる。こんな風に多くの人が自然を楽しんでいる様子がとても好ましかった。知らないだけで日本でもこのような風景はよくあることなのだろうか。地元じゃあまり聞かないが・・・。



明日は早い。早めにパブに行ってから寝ることにする。

DAY11 (2JAN2013) EDI→LHR→AMS→TPE

0400 起床、身支度。やはり朝食は無理。

0455 ゲストハウス発 0500 すばらしいタイミングでバス到着。空港へ。チェックイン。空港で朝食をとる。0700 ロンドンへ向けテイクオフ。

ロンドン・スタンステッド空港着。



バスで最寄りの地下鉄駅へ。乗り換えて 1130 ロンドン・ヒースロー空港着。1450 発のフライトなので、すぐチェックインできた。3 時間後、阿姆斯特ダム経由で台北まで飛ぶ。フライトまで過ごす空港での時間はいつでも楽しい。

これで 2012-13 の冬旅「ロンドンクリスマスとエジンバラ hogmaney」は終わりである。年末年始は基本的に自宅で家族と過ごす習わしになっているので、このような旅はもうないかもしれない。もうスコットランドにも来られないかとも思いきや、実はそうでもないのである。

「クリスマスと hogmaney」(終)

○ 2019 年の活動予定のお知らせ（第 15 回通常総会より報告）

2/16	第 15 回通常総会 @藤野中央公民館
4/20	共催事業『第 15 期ちえのわ農学校』 通年 @東京学芸大学環境教育研究センター
4/21	のびと講座『野草の天ぷらとお茶つみの会』 @東京学芸大学環境教育研究センター
5/3-5/6	冒険学校『むらまつりキャンプ』 @小菅村 3泊4日
8/4-10	冒険学校『こすげ冒険学校』 @小菅村 6泊7日
8/13-15	冒険学校『やまめキャンプ』『いwanaキャンプ』 @小菅村 1泊2日 or 2泊3日
8/10-19	『タイ環境学習キャンプ』 @タイ王国 9泊10日
9/21-22	『INCH まつり・INCH ライブ』 @小菅村 日帰り or 1泊2日
12/26-28	冒険学校『まふゆのキャンプ』 @小菅村 2泊3日

※ 今年度の雑穀栽培講習会（種まき等）については、藤野町で自給農耕ゼミ、雑穀栽培講習会が開催されます。興味のある方は藤野町にご参加ください。 問い合わせ：宮本透 090-2205-8476

※ ログハウス第 4 弾トイレづくりは、いよいよ完成間近です。もう少し、作業続けます～。

○ 事務局より

「暖かい冬でした。雪は降らないし、スタッドレスタイヤも要らなかったかも・・・なんですが、山に雪がありません。春先に水が無さそうで、ヤマメの養殖には困る状況です。奥多摩湖も水位が下がっています。クロ」

○ 事務局の麗しき日々

- ・青樹もついに就職し、都心でシェアハウス暮らしを始めたもよう。
- ・翔くんは出身の稲城市内だけど、一人暮らしを始めたもよう。
- ・サークルちえのわは、15 年目に突入するもよう。
- ・冒険探検部は 4 名の現役学生で新年度を迎えるもよう。
- ・はるちゃんは小菅の物産館で荒稼ぎ（拾った物）しているもよう。
- ・英雄さんと佐々木さんが還暦のもよう。
- ・ひっしーも今年で 40 歳になるもよう。
- ・黒は年賀状の習慣から離脱しました。不義理でごめんなさい。

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12 月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員（個人・団体）：10,000 円

家族会員：6,000 円 特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

雑穀街道特別会員（小菅特別から変更）：1 口 1,000 円から

成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 135 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2019 年 3 月 10 日

<編 集>自然文化誌研究会 事務局

<発 行> 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>